

世界遺産センターがフルオープンしました

昨年10月20日、石見銀山の玄関口となる世界遺産センターがフルオープンしました。

展示物の観覧や体験学習を通じて、石見銀山をより深く理解していただくため、展示棟と収蔵体験棟が完成。一昨年10月のガイダンス棟先行オープン以降、国内外から約27万5千人の来館者を迎えました。昨年10月に開館した展示棟では約1万5千人に観覧いただいています（いずれも延べ人数。12月末現在）。

「ひと目でわかりにくい」と言われている石見銀山ですが、興味をもっていただくために、「よりわかりやすく、より深く」を合い言葉に、展示や体験学習のメニューづくりにセンター職員は腐心しました。

銀山最大の坑道「大久保間歩坑内の復元模型」（右写真）を展示室に設けたこともその一例です。

鉱脈を追って掘り進んだ「江戸期のノミを使った手掘り痕」と「明治期に近代技術で開削した痕」がいっしょに残っている箇所をさがし出し、正確にシリコンを使って型取りを行いました。

皮膚感覚や視覚でも本物を感じていただけるよう、模型設置後も、湿り気やキラキラ光る石英の粒の再現に工夫や試行錯誤を繰り返しました。

奥行8㍍×幅2㍍×高さ3㍍（概数）の模型のなかに入っている観覧者からは、「本物の坑道のような」との感想も聞かれます。

さて、毎年春、たくさんの学生が進学や就職で当地を離れる季節をむかえます。

「わたしのふるさとは石見銀山があるよ」と胸をはってさまざまな地に旅立ち、そしてふるさとに帰ってくる際に現地に足を運んでもらえるきっかけづくりに、世界遺産センターが一役を果たせるよう努めたいと考えています。



写真①



写真②

ガラス繊維強化コンクリートで約1㍍角に造形し（写真①）、室内で組み立て（写真②）。完成形はセンターでとくとご覧ください

ちゃんぽし語録⑥

祖父(A)と孫娘(B)

夕飯時の会話から。なんだか揉めているみたいですが…。

- A: 今夜のおかずはシイラの刺身か、ごっつおだな。手がたわんげ、てしょ取ってごしないや。
 B: はい小皿。方言やめてって何べんも言ってるでしょ。
 A: 年拾やあこがなもんだいな。ほいだがなしてそがなこと言うだかいな。
 B: 学校で方言が出ると馬鹿にされるんだもん。
 A: そがだかな。
 B: みんな「方言なんてかっこ悪いがー」って言うてるもん。
 A: やれのー。ほいだが「がー」も方言だで。
 B: え?! そがなの?
 A: やれしわいだの、やれんだのよお言うてるが、あれも方言だでな。
 B: ええ、明日からなんて言おう……。
 A: やあれのー……。

（解説）

おかずは何でも「ごっつお」。年を「拾う」。お年寄りのそんな言い回しが温かく感じます。最近は方言の良さが見直されつつあり、テレビでもよく耳にするようになりましたね。

でも思春期になると急に方言に反抗を試みる子どもがいます。そんな子どももたいてい「がー」や「そが」は知らずに使い続けているもので、「ああ、この子らも言い出したな」と、ほほえましく感じます。

方言を標準語にするとニュアンスが伝わらないこともあり、いつも対訳に困ります。でもそういう方言をできるだけ残して行きたいものです。

【対訳】

- A: 今夜のおかずはシイラの刺身か、ご馳走だなあ。手が届かないから、小皿を取ってちょうだい。
 B: はい小皿。方言やめてって何度も言っているでしょ。
 A: 年を取ればこんなものだよ。けれど何でそんなこと言うの。
 B: 学校で方言が出ると馬鹿にされるんだもん。
 A: そうなの。
 B: みんな「方言なんてかっこ悪いがー」って言っているもん。
 A: やれやれ。けれど「がー」も方言じゃないか。
 B: え?! そうなの?
 A: 苦しいとか、辛い（困る）とかよく言っているけど、あれも方言だよ。
 B: ええ、明日からなんて言おう……。
 A: やあれやれ……。